2020年度　第2四半期決算説明資料

2020年度第2四半期決算概要及び2020年度通期見通し

2020年11月25日
シンフォニアテクノロジー株式会社
（証券コード6507）

響いてこそ技術
SINFONIA

会社概要①

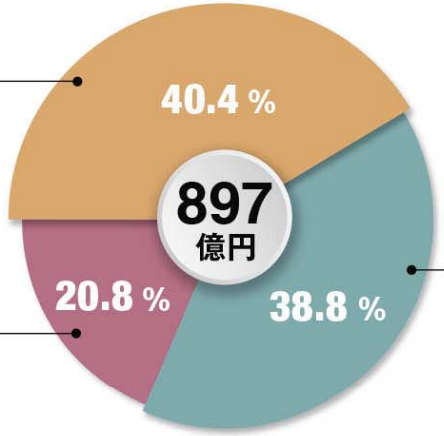
創業　：1917年5月（大正6年）
設立　：1949年8月（昭和24年）
資本金：101億5,696万円（2020年9月末）
従業員：連結 3,693名　単体 1,960名

響いてこそ技術
SINFONIA

会社概要②セグメント情報(2019年度実績)

パワーエレクトロニクス機器

- ●リフティングマグネット「リフマグ®」
- ●サブマージドモータ
- ●超高真空溶解炉
- ●自動車用評価システム
- ●実車衝突実験システム
- ●上下水中央監視システム
- ●上下水道電気設備
- ●道路管理用電気設備
- ●振動搬送機器
- ●パーツフィーダ
- ●ミニエンバイロメントシステム
- ●ロードポート



モーション機器

- ●高速昇華型デジタルフォトプリンタ
- ●カード／IDプリンタ
- ●空港用地上支援車両
- ●超重量物搬送用大型自走台車
- ●宇宙ロケット用電装品
- ●航空機用電装品
- ●鉄道・建設機械車両用電装品
- ●ダイレクトドライブモータ
- ●化合維用高速モータ
- ●電磁クラッチ／ブレーキ

サポート＆エンジニアリング

- ●電気工事・エンジニアリング
- ●ソフトウェア開発
- ●病院内高速搬送システム

響いてこそ技術
SINFONIA

会社概要③中核事業概要

●中期計画「SINFONIA ABC 2020」では、シンフォニアテクノロジーグループの
これまでのノウハウや、市場成長性への期待から、以下の５つを中核事業と位置づけ、
経営リソースを重点的に投入。

『クリーン搬送機器事業』
(ﾊﾟﾜｰｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ機器)
・ロードポート
・ミニエンバイロメントシステム
・真空搬送プラットフォーム

『航空宇宙事業』(ﾓｰｼｮﾝ機器)
・航空機用電装品
・宇宙ロケット用電装品
・空港用地上支援車両

『振動機器事業』
(ﾊﾟﾜｰｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ機器)
・振動乾燥/冷却装置
・振動コンベヤ
・パーツフィーダ

『モーションコントロール
機器事業』(ﾓｰｼｮﾝ機器)
・鉄道/建設機械車両用電装品
・ダイレクトドライブモータ
・化合維用高速モータ
・電磁クラッチ・ブレーキ

『エンジニアリング事業』
(ｻﾎﾟｰﾄ＆ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ)
・半導体製造工場向け設備工事
・各種電気設備工事
・アフターサービス

響いてこそ技術
SINFONIA

2020年度上期決算概要

２０２０年度上期連結決算

（単位：億円）

	19年度 上期実績	20年度 上期実績	対前年比	
			増減額	増減率
受注高	432.3	405.2	▲27.1	▲6.3%
売上高	390.2	398.0	7.8	2.0%
営業利益	2.4	15.7	13.3	6.5倍
経常利益	2.1	14.6	12.5	7.0倍
当期利益(※)	1.1	12.6	11.5	11.5倍

(※)親会社株主に帰属する当期純利益

◆新型コロナウイルス感染拡大の影響による需要の低下により、受注は減少するも、
クリーン搬送機器、社会インフラシステムなどが寄与し増収となった。
損益面は、一部工事費の増加はあったものの、売上増と販売費及び一般管理費等の
固定費の抑制を進めたことにより、増益となった。

響いてこそ技術 SINFONIA

セグメント別業績総括(モーション機器)

（単位：億円）

	19年度 上期実績	20年度 上期実績	対前年比	
			増減額	増減率
受注高	159.4	142.6	▲16.8	▲10.5%
売上高	161.4	139.4	▲22.0	▲13.6%
営業利益	▲4.0	1.8	5.8	–

◆新型コロナウイルス感染拡大等の影響により、アミューズメント向けプリンタや、
空港用地上支援車両の需要が縮小したことから、受注高・売上高ともに前年度を下回った。
営業利益については、減収による減益はあったものの、前年より続いている
航空宇宙事業の将来に向けての新規案件の費用増の影響が縮小したこと等により、
前年度を上回った。

響いてこそ技術 SINFONIA

セグメント別業績総括(パワーエレクトロニクス機器)

（単位：億円）

	19年度 上期実績	20年度 上期実績	対前年比	
			増減額	増減率
受注高	165.2	162.9	▲2.3	▲1.4%
売上高	142.5	175.0	32.5	22.8%
営業利益	2.6	11.0	8.4	4.2倍

◆受注高は、半導体業界の設備需要が堅調だったクリーン搬送機器で
増加したものの、自動車関連業界(鉄鋼、化学等)での設備投資が停滞した振動機器で
減少となり、前年度を下回った。
売上高は、クリーン搬送機器や、社会インフラシステムでの増加により、前年度を上回った。
営業利益については、売上が増加したこと等により、前年度を上回った。

響いてこそ技術 SINFONIA

セグメント別業績総括(サポート＆エンジニアリング)

（単位：億円）

	19年度 上期実績	20年度 上期実績	対前年比	
			増減額	増減率
受注高	107.8	99.7	▲8.1	▲7.5%
売上高	86.2	83.6	▲2.6	▲3.0%
営業利益	4.4	2.9	▲1.5	▲34.3%

◆電気工事、半導体製造工場向け設備工事等は堅調に推移したものの、
病院内搬送設備工事の減少等により、受注高、売上高、営業利益とも下回った。

響いてこそ技術 SINFONIA

2020年度通期見通し

２０２０年度連結通期見通し

（単位：億円）

	19年度実績	20年度予想	対前年比		(参考)8/4公表ﾍﾞｰｽ	
			増減額	増減率	予想	差異
受注高	888.6	800.0	▲88.6	▲10.0%	800.0	±0
売上高	897.6	800.0	▲97.6	▲10.9%	800.0	±0
営業利益	30.7	29.0	▲1.7	▲5.5%	25.0	4.0
経常利益	28.7	28.0	▲0.7	▲2.4%	22.0	6.0
当期利益（※）	16.9	22.0	5.1	30.2%	17.0	5.0

(※)親会社株主に帰属する当期純利益

◆米中貿易摩擦による先行き不透明感に加え、新型コロナウイルス感染拡大等の影響により、受注高・売上高ともに前年度を大幅に下回る見通し。
経常利益は、航空宇宙事業の新規案件の費用増影響の縮小と、固定費削減により、ほぼ前年度並みとなる見通し。
当期利益は、特別利益の計上により増益となる見通し。

響いてこそ技術 SINFONIA

セグメント別業績見通し(モーション機器)

（単位：億円）

	19年度 実績	20年度 予想	対前年比	
			増減額	増減率
受注高	332.6	283.0	▲49.6	▲14.9%
売上高	348.2	277.0	▲71.2	▲20.4%
営業利益	▲9.7	▲3.0	6.7	–

◆新型コロナウイルス感染拡大等の影響により、空港用地上支援車両や、アミューズメント向けプリンタの需要が縮小しており、受注高・売上高ともに前年度を大幅に下回る見通し。
営業利益については、減収による減益はあるものの、前年より続いている航空宇宙事業の将来に向けての新規案件の費用増影響が縮小したこと等により、前年度を上回る見通し。

響いてこそ技術 SINFONIA

セグメント別業績見通し(パワーエレクトロニクス機器)

（単位：億円）

	19年度 実績	20年度 予想	対前年比	
			増減額	増減率
受注高	359.2	335.0	▲24.2	▲6.7%
売上高	362.8	347.0	▲15.8	▲4.3%
営業利益	24.4	20.0	▲4.4	▲17.9%

◆受注高は、自動車関連業界での設備投資の本格回復が未だ見込めないことから、
振動機器等が低調に推移し、前年度を下回る見通し。
売上高は、上期が堅調だったクリーン搬送機器で増加するものの、
受注減少により振動機器等が減少し、前年度を下回る見通し。
営業利益については、売上減により、前年度を下回る見通し。

響いてこそ技術 SINFONIA

セグメント別業績見通し(サポート&エンジニアリング)

（単位：億円）

	19年度 実績	20年度 予想	対前年比	
			増減額	増減率
受注高	196.9	182.0	▲14.9	▲7.5%
売上高	186.6	176.0	▲10.6	▲5.7%
営業利益	16.3	12.0	▲4.3	▲26.2%

◆病院内搬送設備工事の減少等により、受注高、売上高、営業利益とも下回る見通し。

響いてこそ技術 SINFONIA

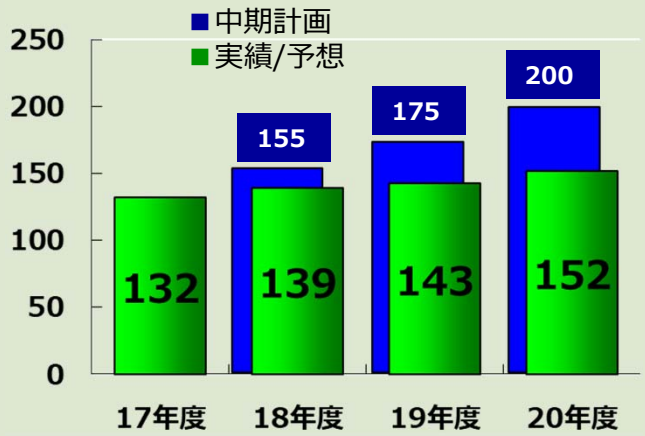
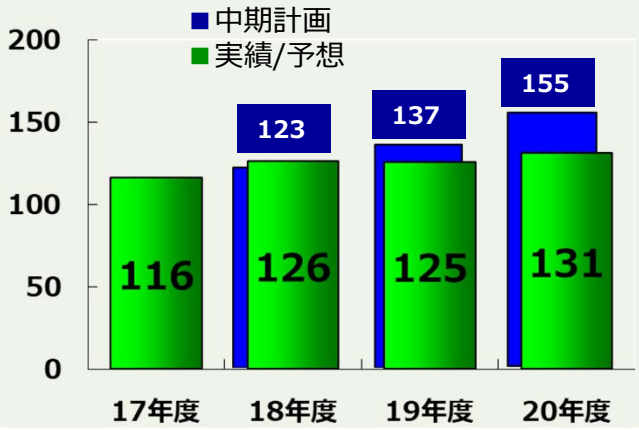
中核事業の2020年度の状況①

主な事業への影響

影響度		事業	状況
前回	今回		
		航空宇宙事業 (ﾓｰｼｮﾝ機器)	・防衛・宇宙用装備品堅調。 ・空港の機材調達は凍結状態継続。
		ﾓｰｼｮﾝｺﾝﾄﾛｰﾙ機器事業 (ﾓｰｼｮﾝ機器)	・FA向け需要は徐々に回復。 ・車載用電装品関係も底打ち。
		ｸﾘｰﾝ搬送機器事業 (ﾊﾟﾜｰｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ機器)	・データセンタ、5G関連で半導体需要は旺盛。 ・米中貿易摩擦の影響が懸念材料。
		振動機器事業 (ﾊﾟﾜｰｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ機器)	・鉄鋼、化学等素材関連業界の自動車向けの状況は、未だ好転せず、客先投資の慎重姿勢は変わらず。
		ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ事業 (ｻﾎﾟｰﾄ&ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ)	・半導体製造工場向け設備工事は好調。 ・国内設備工事の需要は継続して堅調。

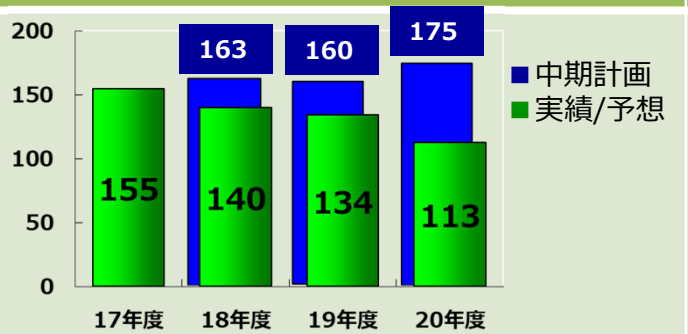
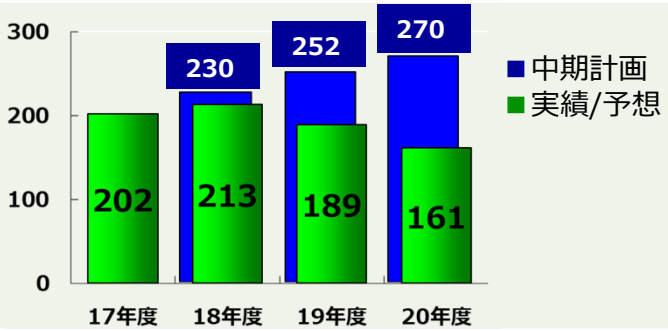
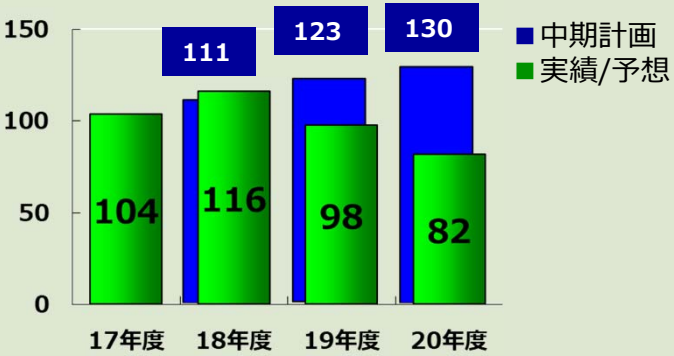
響いてこそ技術 SINFONIA

中核事業の2020年度の状況②

中核事業	売上高推移(億円)	2020年度の状況と取り組み
ｸﾘｰﾝ搬送機器事業 (ﾊﾟﾜｰｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ機器)		・半導体市況は、5Gやデータセンター等の需要によってコロナ影響が少なく、堅調。今後も好調が期待されるが、米中貿易摩擦の影響等による懸念は強く存在する。
ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ事業 (ｻﾎﾟｰﾄ&ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ)		・設備工事が堅調に推移しており、更なる受注増を目指す。 ・半導体製造工場向け設備工事も堅調であり、要員の確保に注力する。

響いてこそ技術 SINFONIA

中核事業の2020年度の状況③

中核事業	売上高推移(億円)	2020年度の状況と取り組み
航空宇宙事業 (ﾓｰｼｮﾝ機器)		・防衛/宇宙用装備品は堅調も、空港用地上支援車両調達は凍結状態継続。 ・開発/生産体制の強化に取り組み中。
ﾓｰｼｮﾝｺﾝﾄﾛｰﾙ事業 (ﾓｰｼｮﾝ機器)		・FA業界での設備投資の慎重な姿勢により低迷継続も、自動車市場に回復の兆しあり。 ・産業用車両の電動化・自動運転に向けた技術開発に取り組む。
振動機器事業 (ﾊﾟﾜｰｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ機器)		・コロナによる自動車販売の需要低迷により、関連業界(鉄鋼、化学)の設備投資抑制継続。 ・食品/再資源/新素材などの分野向けの提案を強化する。

響いてこそ技術 SINFONIA

ポストコロナを見据えた取組と活動

●バーチャル展示会の開催。
最新技術、新製品情報、
ウェビナーの開催やチャットによる
来場客からの質問に説明員が
即時対応

販売活動

安心・安全の確保

ポストコロナにおける

●感染予防の基本動作(手洗い、うがい、マスク着用)徹底
●テレワークの推進
● Web会議、テレビ会議の励行

新事業開拓

●再生医療分野の開発加速
●産業用車両の電動化・
自動運転に向けた取組
●航空機の電動化
●農業分野への取組

開発中の細胞自動培養システム

響いてこそ技術
SINFONIA

配当について

- 配当については継続的かつ安定的に実施していくことを基本としつつ、株主の皆様の利益と、企業体質の強化及び今後の事業展開のための内部留保の充実、先行きの収益状況を勘案して利益配分を決定。
- 2021年3月期の連結業績の当期純利益予想は、前年度より増益とするものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響等により、今後はさらに厳しい経営環境が続くことが予想される。財務基盤の安定化や今後の成長投資に備えるため、2021年3月期の期末配当については、8月4日発表の予想通り、1株当たり20円とする予定。

	16年3月期	17年3月期	18年3月期	19年3月期	20年3月期	21年3月期
1株当配当金（円）	4	7	7	※1 40	30	20
1株当たり当期純利益（円）	19.17	26.75	35.35	155.89	56.94	74.40

※1：18年10月1日、株式併合（5株を1株に併合）実施

響いてこそ技術 SINFONIA

響いてこそ技術

SINFONIA

将来予測について

本資料中の見通し及び事業計画については、現時点における将来環境予測等の仮定に基づいております。

本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。